

企業の新卒採用意欲は、いまのところ維持されているが、感染拡大が長引けば下振れする可能性もある。学生の不安を取り除くための目配りが求められる。

例年、9月からスタートする高卒者の選考・採用は、臨時休校等への対応により今年は1か月後ろ倒しとなった。大卒者では、説明会開催や面接選考の遅れもあって内定率が前年を下回って推移するなど、企業の採用活動に新型コロナウイルス感染拡大の影響が広がっている。

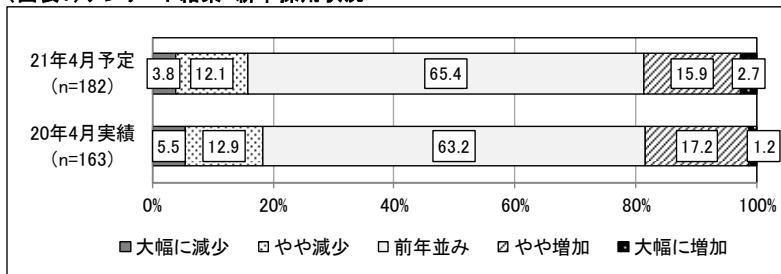
新卒採用について当社が実施した県内企業向けアンケートでは(図表1、千葉経済センターからの受託、実施期間:6月1日~7月13日、有効回答数:229社)、来春の新卒採用を今年に比べて「増やす」と回答した先(「大幅に増加」と「やや増加」の合計)は全体の18.6%となり、「減らす」先(「大幅に減少」と「やや減少」の合計、15.9%)を上回った(今年4月の実績は、「増やす」と「減らす」が同数)。世代間バランスへの配慮もあるが、同時期に調査した今年度の設備投資計画が当初計画比小幅の減額修正に止まったことからみても、県内企業の成長期待はいまのところ維持されているように窺われる。

もっとも、ウイルス感染の状況次第では、「採用計画を変更する可能性がある」先が約4割ある(図表2)。6月の県内有効求人倍率(0.93倍)も、宿泊業・飲食サービス業の求人減などから約5年ぶりに1倍を下回った(図表3)。今のところ求人の減少は非正規雇用者が中心とみられるが、感染拡大が長期化すれば新卒採用計画にも影響が及ぶことが懸念される。

この間、感染防止に配慮し手探りで進められる採用活動では、Web面接や説明会など、オンライン化が進んだ。Web面接は、企業の雰囲気や伝えづらいなどのデメリットがある一方で、地理的な制約がなくなって採用の間口が広がる、採用コストを抑えられるなどのメリットがあり、「新しい生活様式」の下で対面との併用が進むことも考えられる。IT化が遅れている中小企業では、採用における大企業との格差を縮めるためにも対応を急ぎたい。

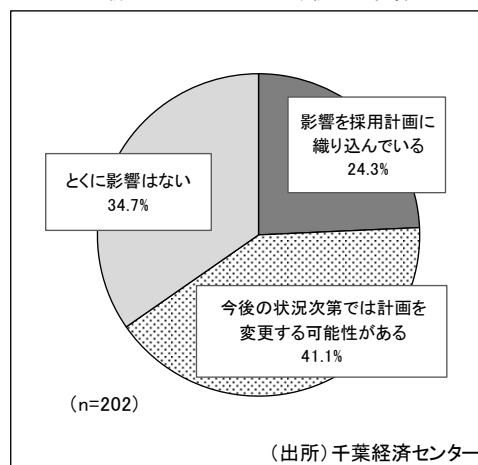
かつてない環境下での就職活動に、学生の不安は計り知れない。送り出す学校側にはこれまで以上に手厚い支援が必要となる。既に県大学と県内企業合同のWeb説明会も開催されているが、情報提供をはじめ、企業やキャリア支援団体などとの連携強化が求められる。県内自治体では、コロナウイルスの影響で内定取り消しとなった学生を職員として採用する動きがみられているが、他県では雇用維持が難しくなった企業と人手不足企業とのマッチングなど、求人情報を仲介する動きも始まっている。将来の地域経済の担い手を確保するため、多面的な支援が期待される(井上)。

(図表1)アンケート結果・新卒採用状況



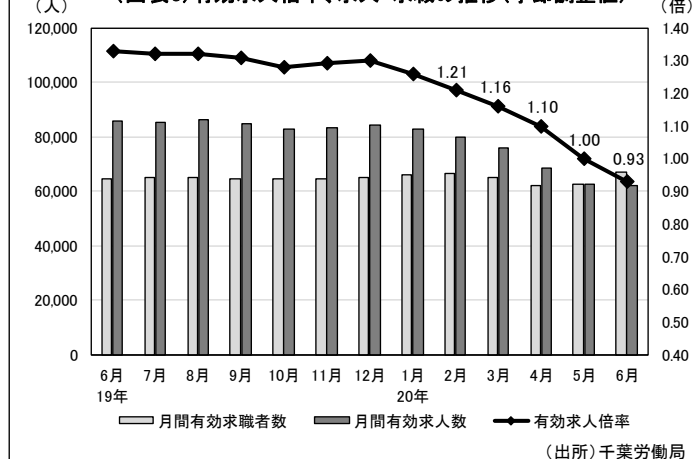
(出所)千葉経済センター

(図表2)アンケート結果・21年4月採用計画における新型コロナウイルス感染拡大の影響



(出所)千葉経済センター

(図表3)有効求人倍率、求人・求職の推移(季節調整値)



(出所)千葉労働局